

例 えば

離島から鹿児島市内で家づくりをしたいと思った時に何から進めれば良いのか……。準備が整っても、見知らぬ土地での家づくりに不安は尽きません。そんな不安を払拭させるため、親身になってサポートいたします。

特集ではSご家族に夢実現までの道のりを振り返りながら、担当営業と対談いただきました。

施主様

Sご家族

担当営業

藤田 聡志

特集  
離島から  
の家づくり

種子島 »  鹿児島市



### 離島からの家づくりの流れ

- まずは新築購入者の同僚たちから情報収集
- ▼
- ヤマサハウスの評判が高いことから資料請求
- ▼
- 鹿児島市内への出張中に偶然に入った土地と出会う
- ▼
- ヤマサハウスのHPに気に入った土地の宅地分譲地を見つける
- ▼
- ヤマサハウスに問い合わせ&確定
- ▼
- 郵送やメール、電話でのやりとりをメインに家づくりを開始
- ▼
- 本土での打ち合わせを5~6回重ねる
- ▼
- 離島からの家づくりを決意してから約2年。ついに快適居住生活がスタート!



安心して家づくりができました



夫婦共に種子島に勤務していたお客様。「いつか家を建てたい」という想いから周囲で評判がよかったヤマサハウスに資料請求したところ、鹿児島市内への転勤が決まり家づくりを決意したそうです。今回、離島と鹿児島市内にて二人三脚で行った担当営業の藤田と、家づくりについて振り返っていただきました。

**藤田** Sさん、お久しぶりです。当社の「MOOK HOUSE」の住み心地はいかがですか？

**ご主人** おかげさまでとても快適です。奥様 夫は仕事熱心でなかなか家に帰って来ない人だったので、この家で暮らし始めてからこれまでより早く帰ってくるようになりました(笑)

**藤田** それはよかったです。家づくりは資料請求を頂いたあとに、私がお電話をしたのがきっかけでしたね。

**ご主人** いずれ家を建てたいと思っていたのですが、今すぐという状況ではありませんでした。ですが、これまで家づくりをした同僚たちに尋ねると、皆一様に「ヤマサハウスがいい」というので資料請求しました。

**藤田** 決める手はどなたさんですか？

**奥様** 夫が仕事で本土に来た際に、この家があるエリアを気に入って、それから土地を探していたところヤマサハウス

さんのホームページに希望の土地が販売されているのを見て、藤田さんにお電話しました。決める手は、藤田さんが「この辺りはコンビニがありませんよ」と、メリットだけでなく、デメリットもしっかりと伝えてくださったところ。この方は信頼できると思いました。ありがとうございます。

**藤田** あと藤田さんは家づくりの過程、たくさんヒアリングをしてくださりました。「MOOK HOUSE」が別の家か迷っているときもモデルハウスの宿泊体験をすすめてくれたり、間取りを決めかねているときもすぐに別の案を提案してくださったり、対応が丁寧でスピーディでした。

**ご主人** 「MOOK HOUSE」に決めたのも迷っているポイントを話したときに藤田さんがそれが理由であれば、ぜひおすすめてほしいと背中を押ししてくださいました。あのときもヤマサハウスの宿泊体験をした際、わざわざ来てくださいましたと驚きました。大事な場面で寄り添ってくださり、安心して家づくりに取り組むことができたと思います。

「離島だからこそ準備することはありますか?」とよく聞かれるのですが、基本的に鹿児島本土でも離島でも家づくりの進め方に大きな違いはありません。私が離島のお客様に対して心がけていることは、Zoomやメール、お電話での説明をわかりやすくすること。オンラインでのお打ち合わせでは画面で情報を共有したり、資料を郵送するときには添え書きし

たりして、できるかぎり内容が正確に伝わるよう工夫しています。そして、契約などお互いに責任や義務が発生する大事な場面では必ずお会いして、直接お話しします。小さな疑問や違和感をそのままにせず、気持ちよく家づくりが進められるように事前にお電話で確認したり、メールで資料を送ったりする手間は惜しみません。頻繁にお会いできな

今回、離島のお客様との家づくりを担当した営業の藤田さん。不安や心配ごとが多い離島からの家づくりのポイントや進め方、藤田さんご自身が仕事をやるうえで大切にしていること、心がけていることなどを改めてうかがいました。

担当営業課長 藤田 聡志



オンラインでの  
打ち合わせを重ねて  
離島から鹿児島本土の  
家づくりを叶えます!



◆P10~P13 実例 MY LIFE ORIGINALでも今回の取材をさせて頂いたお客様邸の詳細を紹介しています。

離島からの打ち合わせもスムーズ。効率的に進められるようにプランニングして頂きました。



大自然に囲まれた島での暮らしは子供たちの成長にも大きなプラスに。ご近所さんとも家族のように親しく、住まいが移った現在も仲良くさせて頂いています。

**藤田** 家づくりの期間は、どのような気持ちでしたか?

**ご主人** 打ち合わせなどで島と本土を往き来したのは5、6回でしたが、毎回楽しみでした。一度鹿児島市内に来ると2、3日は家づくりのことに奔走していましたが、藤田さんが効率的に済ませられるようにプランを組んでくださってありがたかったですね。

**奥様** 子どもたちは祖父母の家に預けたり、本社での打ち合わせのときはキッズコーナーで遊んでいたりしましたね。それから島にいる間も施工管理の方が、家ができる過程を写真に撮ってクラウドにアップしてくださって、それを見るのも楽しみのひとつでした。毎回わくわくしながら写真を見ていましたね。

**藤田** 実際に家づくりをしてみて、当社の魅力をごんなどころに感じましたか?

**奥様** 私たち夫婦は転勤があるので、特にそう感じるのかもしれないですが、やはり鹿児島島の企業であること。全国展開しているハウスメーカーさんだと鹿児島から撤退ということもあり得ますが、ヤマサハウスさんなら安心です。

**ご主人** 鹿児島の本を使用している家というのは、地元ならではの素材の安心感や親近感があって愛着が湧きます。全国展開の工務店ではなかなか難しいことだと思うので、そこもよかったです。

**藤田** ありがとうございます。ほかに印象に残っていることはありますか?

**奥様** キッチンの天板の素材を選んでいるときに、藤田さんに相談したときのことや印象に残っていますよ。夫と意見が分かれて困っていたのですが、藤田さんに話す、私の性格に合わせて扱いやすい天板をおすすめしてくださってスムーズに決まりました。そういった細やかなフォローが助かりましたね。

**ご主人** 藤田さんのほかにも設計やインテリアの方も、とても親切にしてくださり、私たちの家づくりはヤマサハウスの方々に恵まれたなあと思っています。



① 木のぬくもりに包まれた開放感のあるリビングでは自然に会話と笑顔がうまれる。② 「MOOK HOUSE」のアドバイザーが作った模型。家づくりの間、ときどき眺めては家の完成を待ち望んでいたそう。③ 引っ越すときにいただいたという島の素材でつくったボトル。ダイニングの棚に、今も大切に飾っているとのこと。